

**木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨**

<b>会議名</b>	第 44 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
<b>日 時</b>	平成 31 年 3 月 28 日 (木) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分	<b>場 所</b>	木津川市役所 第 2 北別館 2 階 会議室
<b>出席者</b>  (出席者…■) (欠席者…□)	<b>委 員</b>	<b>【学識経験者】</b> ■中川 大 (副会長)、 ■大庭 哲治委員 <b>【市民代表】</b> ■杉本 美保委員、 ■長野 博行委員、 ■福本 桂子委員、 ■神野 勝三郎委員、 ■大村 裕信委員、 ■平田 克子委員、 □行衛 満委員、 ■中島 英一委員 <b>【事業者】</b> □梅澤 浩二委員、 ■山本 恒平委員 ※代理：桑名 光紀 (近畿日本鉄道株式会社総合企画本部計画部)、 ■山野 豊委員 ※代理：大久保 篤士 (奈良交通株式会社乗合事業部統括次長)、 ■津田 秀夫委員 □足立 高広委員、 ■大江 正泰委員、 □梅田 幹夫委員、 □加藤 隆委員、 ■霜永 勝一委員※代理：中森 博和 (奈良交通労働組合組織部長) <b>【行政機関】</b> ■岩崎 靖彦委員 ※代理：戸田 辰司 (国土交通省近畿運輸局京都運輸支局首席運輸企画専門官)、 □永見 晃之委員、 □岩田 高明委員、 ■山本 克委員、 ■岡島 永治委員※代理：藪内 弦 (京都府木津警察署交通総務係長) □河井 規子会長、 □田中 達男委員、 ■若狭 朝明委員	
	<b>その他</b>	<b>【オブザーバー】</b> □原 辰幸	
<b>事務局</b>	武田事務局長、奥田事務局次長、日比主任、宮本主任		
<b>傍聴者</b>	1 人		
<b>議 題</b>	1. 開会  2. 議事 (1) 報告事項 ①木津川市コミュニティバスの利用状況について【資料 1】  (2) 協議事項 ①平成 31 年度予算 (案) について【資料 2】  (3) その他 ①請願書及び嘆願書の提出について ②次回協議会の開催日程について  3. 閉会		
<b>会議結果要旨</b>	1. 開会 事務局より開会の宣言があった。		

	<p>京都府木津警察署より参画の梅田委員に代わり、交通課長 岡島 永治 氏が新たに委員として参画した旨を報告した。</p> <p><b>2. 議事</b> 議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として神野委員を指名した。</p> <p><b>(1) 報告事項</b> ①木津川市コミュニティバスの利用状況について 資料1に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p><b>(2) 協議事項</b> ①平成31年度予算(案)について 資料2に基づき、事務局から説明があり、承認した。</p> <p><b>(3) その他</b> ①請願書及び嘆願書の提出について 参考資料に基づき、事務局から説明があり、確認した。 ②次回協議会の日程について 後日通知することとした。</p> <p><b>3. 閉会</b></p>
<p><b>会議経過要旨</b></p> <p>◎議長 ○委員 →事務局</p>	<p><b>1. 開会</b> 会議結果要旨のとおり。</p> <p><b>2. 議事</b> <b>(1) 報告事項</b> ①木津川市コミュニティバスの利用状況について 【配布資料】資料1 木津川市コミュニティバス利用実績 【主な意見・質疑等】 ○：利用者が減少した理由は、要因分析は行っているのか。 →：きのつバス木-1(梅谷～高の原駅)は、一部区間で奈良交通路線バスと重複している。路線バスの方が運賃は高いが、梅美台・州見台地域から木津駅・山田川駅を経由する木-1路線に比べ、同地域から直接高の原駅まで運行するため速達性が高く、年間約3万人の利用者が増加している。木-1の利用者は減少しているが、路線バスの利用者は増加していることから、同地域の公共交通全体の利用者は減少していないと考えている。また、きのつバス木-3(木津川台住宅～高の原駅)は、昼の時間のみ運行しており、朝・晩の時間は奈良交通(株)路線バスが運行している。これまでは、山田川駅から木津川台住宅バス停付近にある事業所への出勤で、約7名の方がコミバスを利用されていたが、働き方改革によりコミバスより1本早い奈良交通の路線バスに乗り換えられたことが利用者減の要因と考えている。 ○：7名の乗り換えだけで、年間2,000名の利用者が減少するのか。 →：1年で200日利用されていたと試算すると、年間1,400名の減少となるため、減少要因の一つであると考えている。また、木津川台北側にある精華大通りを運行する奈良交通路線バスの利用者も増加していると事業者から報告を受けており、こちらも</p>

コミバスから乗り換えされていると考えている。

◎：きのつバスから路線バスへ乗り換えたことは悪いことではなく、全体のネットワークの中で便利になっていると考えられる。富山県内をはじめ、いくつかの市町村では公共交通の利用が増え始めており、公共交通は増える時代になったと感じている。コミュニティバスは減少傾向だが、公共交通全体として利用者が増えているのであれば、しっかりと分析・周知をしていく必要がある。

○：路線バス利用状況の資料提供をお願いしたい。

→：後日資料を作成し、委員へ送付する。

○：奈良交道路線バス「木津高山線」の減便について、協議会で報告がなかったのはなぜか。沿線地域長及び議員に通知した書類を持っているが、協議会委員にも通知するべきではないのか。

◎：民間路線の動向であっても、協議会で情報共有や報告するように努めていただきたい。

→：民間路線の動向は、今回の協議会で報告する予定であった。今後同様のことがあれば、事前に協議会委員へ情報提供を行うこととする。

○：路線バスの減便・増便を市民へどう周知するのか。

→：公共交通日より4月号に掲載し、周知する予定である。

○：運行の休廃止は、地域公共交通網形成計画に定められており、協議会で協議する必要はないのか。

→：道路運送法上、路線の減便は協議会の決定を必要としないため、奈良交通が運輸局に対して届出を行っている。また、地域公共交通網形成計画に定められている休廃止に係るガイドラインはコミュニティバスのものである。

○：運行事業者として、減便についてご不便をおかけしてお詫びする。木津高山線全体の利用状況として、1便当たりの利用者は平均で2.9人、南陽高校での降車人数は平均で2.2人と、利用者が僅少であり、バス事業の継続が厳しいものであった。奈良交通も民間企業であり、ある程度の利用者が必要となる。こうした中で、市民の皆様にはご迷惑をおかけするが、減便させていただく形となった。もう一つの理由としては、高の原梅美台線の学生利用増加に伴い、増便の原資として木津高山線の減便を実施させていただいた。本心としては減便等は実施したくないが、民間企業である以上は、ある程度採算を取らなければならず、1便3人の利用では事業が成り立たない。また、ここ数年は乗務員不足が深刻化しており、一定の利用がある便についても減便していかなければならない状況となっている。企業として努力していく所存だが、公共交通をめぐる問題をご理解いただき、コミュニティバスも含めて、利用を増やす施策を考えていく必要がある。

○：木津地域は、きのつバス・奈良交道路線バスといった充実したネットワークが構築されており、山城地域でも上粕駅・棚倉駅があるにも関わらず、木津駅まで山城線が運行している。加茂地域は、加茂駅までコミバスが運行されているものの、便数が少なく、土日運行もないなど、3地域における交通インフラの格差を感じている。南加茂台線は本数が少なく、予約が煩わしい。加茂駅から木津駅までの路線は厳しい財政事情から継続審議となっているが、請願・嘆願書の要望を受け止めて、乗りやすく満足度の高い路線を運行すべきである。昨年11月の未来投資会議で、安倍首相が「地方銀行と乗合バス等は地域住民の不可欠なサービスを提供しており、サービスの維持は国民的な課題」と発言されている。南加茂台地域は高齢化が進んでおり、団地内で

の移動も困難になることが予想されるため、早い対策が必要である。

## (2) 協議事項

### ②平成31年度予算(案)について

【配布資料】資料2 平成31年度予算案について

【主な意見・質疑等】

○：ネーミングライツの収入はどのように活用するのか。

→：利用者に還元できるよう、ワークショップ参加者に対して1日フリー乗車券の無料配布など、新しい利用促進施策の財源としたい。なお、時刻表のネーミングライツ紹介ページ追加などの諸経費にも使わせていただく。

## (3) その他

### ①請願書及び嘆願書の提出について

【配布資料】参考資料 請願書及び嘆願書の提出について

○：加茂地域から木津地域へのバス運行はどうなったのか。社会学者である上野千鶴子の対談で、「財政分配の優先順位が低いことはまさに差別である」という発言。これを木津川市に援用するならば、コミュニティバスは加茂地域を差別しているといえるのではないか。なぜ一体的な運行ができないのか。

→：木津地域までの延伸は、協議会で調査の指示を受け進めてきたところである。南加茂台地域では1日48本の奈良交通路線バスが走っており、30分に1本加茂駅まで運行している。

○：加茂地域から木津地域までの延伸を議論すべきである。南加茂台地域ばかり話が出るのはおかしいのではないのか。

○：嘆願書の取り扱いは。

→：平成31年度策定予定である公共交通網形成計画において、市民アンケートを実施する予定であり、その結果等を踏まえ、協議会で議論いただきたいと考えている。

○：アンケートはどのように実施するのか。

→：木津川市在住者を無作為抽出し、地域ごとのニーズ分析を行う。なお、基本的には前回と同じ質問を中心に、5年間の比較を重視するものであり、内容については次回協議会時に報告する。

○：アンケートは請願書等の提出を受けて行うものか。

→：公共交通網形成計画の策定において実施するものであり、アンケート内容はバス利用や使用目的などの一般的なことから、地域のニーズについて問うものであり、請願書の内容や具体的な路線を載せるわけではない。

### ②次回協議会の日程について

本年6月中下旬を目途に事務局で調整し、改めて通知させていただく。

### ③その他

○：ダイヤ改正後に、高の原駅から木津駅まできのつバス木-3で移動したが、加茂方面へのJR乗り換え時間が5分増えたことで、非常に便利になった。きのつバス木-1は4分での乗り換えとなるが、実際に可能かどうか試すこととする。

○：協議会委員が特定の内容を発言をする際は、資料を準備いただき、それに基づい

	<p>て議論を行うべきではないか。他の委員に情報共有できないと、議論することが難しい。</p> <p>3. 閉 会</p> <p>以上。</p>
その 他 特記事項	<p>なし。</p>